

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

		単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】	
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)	
全学 共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
	保健福祉学部 共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎			○	○
文学				2	◎					
日本国憲法				2	◎					
生物と生命科学				2	◎					
数学リテラシー				1	◎					
こころと人間				2	◎					
経済学入門				2	◎					
生活の中の化学				2	◎					
人生と哲学				2	◎					
法学				2	◎					
比較文化と国際理解			2	◎					○	
アカデミックスキル		基礎英語		1	◎					
		英会話入門		1	◎					
	実用英語コミュニケーション		1	◎					○	
	中国語入門		1	◎					○	
	中国語発展		1	◎					○	
	ハングル入門		1	◎					○	
	ハングル発展		1	◎					○	
	日本語表現法		1	◎					○	
	メディアリテラシー		1	◎					○	
	情報処理基礎		1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	高齢者支援学Ⅰ		1	○			◎	○		
	高齢者支援学Ⅱ		1	○	○		◎	○		
キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援 実践キャリアプランニング		1	○				◎		

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

		単位数		大学の学位授与の方針(DP)						
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】	
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)	
全学 共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
	人文学部 共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎			○	
文学				2	◎					
日本国憲法				2	◎					
生物と生命科学				2	◎					
数学リテラシー				1	◎					
こころと人間				2	◎					
経済学入門				2	◎					
生活の中の化学				2	◎					
人生と哲学				2	◎					
法学				2	◎					
比較文化と国際理解			2	◎					○	
アカデミックスキル		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
	ハングル入門		1	◎					○	
	ハングル発展		1	◎					○	
	フランス語入門		1	◎					○	
	フランス語発展		1	◎					○	
	日本語表現法		1	◎					○	
	メディアリテラシー		1	◎					○	
	情報処理基礎		1	◎					○	
	情報処理演習		1	◎					○	
地域創生	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	地域プロジェクト		1	◎			○	◎		
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
	キャリア形成支援	2		◎						
キャリア形成支援	ライフイベントとキャリア支援 実践キャリアプランニング		1	○				◎		
			1	○				◎		

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次												
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
小児看護学概論	1			1							○	◎									
小児看護学方法論	2				2						○	◎		○				○			
小児看護学演習	1					2						○	○					◎			
小児看護学実習	2							実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎	
母性看護学概論	1			1							○	◎	○								
母性看護学方法論	2				2						○	◎	○		○						
母性看護学演習	1					2					○	○	○					◎			
母性看護学実習	2							実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎	
成人看護学概論	1			1								◎	○	○							
成人慢性期看護学方法論	2				2						○	◎		○							
成人急性期看護学方法論	2				2						○	◎		○							
成人看護学演習	2					4					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	
継続支援実習	1							実習					○	○	○	○	○	○	○	◎	
成人慢性期看護学実習	2							実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎	
成人急性期看護学実習	2							実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎	
老年看護学概論	1			1							◎	○				○		○			
老年看護学方法論	2				2						○	◎			○						

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2				
			1年次		2年次		3年次		4年次																
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期															
老年看護学演習	1									1. 高齢者のアセスメントで、加齢性の心身変化を考慮して情報を分析できる 2. 対象のからだ・こころ・くらし・かかわり・生きがいを考慮した看護問題を抽出できる 3. 事例患者の看護過程を通して、食事療法、皮膚障害、排尿障害に対する看護ケア計画を立案できる 4. 事例患者の看護過程を通して、安楽を促す看護ケア計画を立案できる 5. 事例患者の看護過程を通して、対象の身体可動性、心臓機能、感覚機能に応じた看護ケアの方法、目標を設定できる 6. 事例患者の看護過程を通して、対象の認知機能、文化的背景を考慮した効果的なコミュニケーションを検討できる 7. 事例患者の看護過程を通して、高齢者の意思決定や意思疎通を支える方法について検討できる			○		○										
老年看護学実習	2								実習 実習	1. 生活機能を中心とした高齢者の全体像を捉えることができる。 2. 加齢あるいは疾病等によりコミュニケーション能力が低下した高齢者と援助的な人間関係を形成できる。 3. 高齢者の生活機能の回復あるいは維持・増進をめざした看護過程が展開できる。 4. リハビリテーション看護に関する技術を実践あるいは見学することで、看護実践力を高めることができる。 5. リハビリテーション病院におけるチーム医療について理解し、望ましい協働のあり方を考えることができる。 6. 高齢者の生活機能を維持増進するために必要なさまざまな施設・居宅サービスについて理解し継続看護の視点をもつことができる。 7. 高齢者との出会いを契機に、自らの高齢者観を育むことができる。			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
精神看護学概論	1									1. 心の健康、心を病むことの意味について考えることができる。 2. 対象理解の基礎となるモデルを理解することができる。 3. ライフサイクルにおける心の発達と危機について理解することができる。 4. 精神保健活動と法制度の変遷および精神障がい者に対する福祉施策について理解することができる。		◎	○												
精神看護学方法論	2									1. 対象者へのかかわり方の理論と技術の基本が理解できる。 2. 精神に障がいのある対象の特徴と看護の役割、および精神科看護に必要な援助技術を理解できる。 3. 精神医学的な知識を基本に、精神科の各種治療法とその看護が理解できる。 4. 精神障がい者が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える保健・医療・福祉の支援システムについて理解できる。		○	◎		○										
精神看護学演習	1									1. 統合失調症の事例を通して看護実践に必要な基礎知識の活用を図ることができる。 2. 精神科に入院している患者のセルフケア能力やストレスをアセスメントし、必要な援助を理解できる。 3. 精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を学び、プロセスレコードの分析の視点に沿って考察することができる。			○		○					◎					
精神看護学実習	2								実習 実習	1. 精神に障害を持つ人への治療と治療的環境について理解ができる。 2. 精神に障害を持つ人への理解ができる。 3. 患者―看護者関係の発展過程を理解し、治療的かかわりを学ぶ。 4. 精神に障害を持つ人を受け持ち、セルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を行う。			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎		
看護研究の基礎	1									1. 研究の流れを理解し説明できる 2. 文献クレークを作成できる 3. 研究テーマにあった英語論文を選定し、要約を作成できる 4. 尺度の活用や回答様式を検討し質問紙を作成できる 5. 指定された論文から抄録を作成できる 6. 指定された質的データの内容分析を行い、結果を示すことができる 7. 研究説明文書/同意書を作成できる 8. 研究テーマについて情報を整理し、媒体を用いてプレゼンテーションできる 9. 研究計画書を作成できる 10. 積極的にそれぞれの学修活動に臨むことができる		○	◎									○			
看護キャリア形成論	1									1. 社会で活躍する看護の先輩方の物事の見方・考え方に触れ、「看護」という職業についての知識を増やすことができる。 2. 看護を目指す者としての自身の強みと課題を明らかにし、述べるることができる。 3. 自身の強みを活かしつつ、課題解決に向けた方策を考え、意見を述べるることができる。 4. 課題解決に継続して取り組む姿勢、課題解決策を実行しようとする行動力を備えることができる。 5. 看護専門職としての自らの将来像をイメージし、具体的に述べることができる。			◎	○	○	○	○	○	○						
卒業研究	2									1. 既習の知識・技術、理論、臨床実習の経験に基づき、各指導教員とディスカッションしながら看護に関する研究テーマを設定できる。(DP-2-1, 4-2, 4-3) 2. 研究テーマにおける問題解決や仮説を検証するために、倫理的配慮に基づく研究計画を作成できる。(DP2-1, 4-2) 3. 研究計画に基づいて、調査研究や実験等を実施できる。(DP2-1, 4-2) 4. 得られたデータの解析処理を経て、論文を作成できる。(DP-2-1, 4-3) 5. 研究のプレゼンテーションができる。(DP4-2)			○	○	○	○	○	○	○	○	◎				
看護総合実習	2								実習 実習	1. 看護実践及び専門領域における自己の課題を探索し、明確にできる。(DP2-1) 2. 課題を解決するために、自ら企画した計画に基づいて現場との調整を図りながら、計画的・主体的に実践できる。(DP2-1, 3-2, 5-2) 3. 実践の場において、対象となる人々を全人的に理解し、良好な人間関係を構築し、多職種と連携しながら、適切な看護ケア、教育を実践できる。(DP3-2, 5-1, 5-2) 2. 計画を実践する中で、実践能力を高め、看護の質の向上に向けて、生涯、学習者として自己研鑽を続ける必要性を述べることができる。(DP3-1) 5. 自らの実践を振り返り、客観的・科学的に看護および専門性を探求する。(DP4-2, 4-3)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
国際看護学	1									1. 国際保健の対象を説明できる 2. 世界の健康課題について列挙できる 3. 国際保健医療協力活動について理解できる 4. 健康に影響を与える文化、気候、文化、食事を例示できる 5. レイニンガー看護論サンライズモデルに含まれる要素について説明できる 6. 患者の文化的安全を守る患者サービスを例示できる 7. 言語的障壁が医療や健康に与える影響を説明できる 8. 多文化共生社会において外国人と共に働く際の課題を検討できる 9. 多文化共生社会において外国人と共に働く際の課題を検討できる 10. ある文化背景の人々の衛生習慣、保清ケアについてグラフィックレコーディングで示すことができる		○	○		◎										
災害看護学	1									1. 災害および災害看護に関する基礎知識を説明できる。 2. 災害医療に関する国の政策と主な法律を説明できる。 3. 災害中の人々の生命や心理及び生活に及ぼす影響を説明できる。 4. 災害中におけるとるべき組織の活動と看護の実際をイメージできる。 5. 災害時に看護が果たす役割を説明できる。 6. 看護職として災害看護を担う態度、意欲を高めることができる。		○	○		◎										
がん看護学	1									1. がん患者の特徴を述べることができる。 2. がん治療による影響をふまえた看護援助について述べることができる。 3. がん治療の場を考慮した継続看護のありかたについて述べることができる。 4. 終末期にある患者とその家族の特徴を述べることができる。 5. 緩和・終末期医療を受ける患者と家族のQOLの維持・向上を支える看護援助について述べることができる。 6. 緩和・終末期医療におけるチーム医療のありかたを述べることができる。 7. 死をめぐる倫理的課題をあげ、それに対する看護の役割を述べることができる。			○	◎		○	○								
ウイメンズヘルス	1									1. 様々な視点からウイメンズヘルスについて理解することができる。 2. リプロダクティブヘルス/ライツから見た女性の健康に関する課題について、自己の考えを述べることができる。 3. ライフサイクルから見た女性の健康に関する課題について、自己の考えを述べることができる。		○	○		◎										
看護マネジメント論	1									1. 2年次で学修した看護マネジメントの基礎知識を振り返り、医療・看護マネジメントの定義とプロセス、組織構造、資源管理とその利活用に関する知識を修得することができる。 2. 質の高い医療・看護を効果的・効率的・創造的に提供するために、「医療安全管理」「入退院調整管理」の事例を通して、看護マネジメントのプロセスである「計画化」「組織化」「人事化」「指揮」「統制」を、情報や知識を活用し論理的に思考できる。 3. 自立した女性として、生涯を通じて看護職として社会貢献できるよう、組織における看護者の存在意義を思考する意欲をもっている。 4. 医療・看護の質の維持・向上のためには、多様性を踏まえた多職種との連携・協働のしくみづくりが必要であることを理解し、グループメンバー間で協力を意欲をもっている。 5. 看護専門職となることを自覚し、限られた時間の中で倫理に基づきグループメ			○	◎	○	○	○	○	○	○	○				
クリティカルケア看護学	1									1. 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者及び家族の精神的ケアについて、危機理論・危機介入及び倫理的課題・倫理的調整を踏まえて説明できる (DP1-2, DP2-1)。 2. 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の「いのちを守る」ための看護の特徴を説明できる (DP2-1)。 3. 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の観察および看護援助について安全・安楽の観点から根拠を述べることができる (DP2-1)。 4. 人工呼吸器装着中の看護実践を体験し、知見を深めることができる (DP3-1, DP4-1, DP4-2)。 5. 救急・クリティカルケア看護の専門性について考察することができる (DP2-1, DP3-1, DP4-3)。			○	◎	○	○	○	○	○	○					
オーラルヘルスケア	1									1. オーラルヘルスケアの意義・目的を述べることができる。 2. 口腔機能の評価、摂食嚥下機能評価について述べることができる。 3. 妊産婦、小児、高齢者、障害者、治療を受ける患者などの対象の特徴に応じたオーラルヘルスケアの方法について述べることができる。 4. 口腔清掃の技術および清掃指導、口腔機能訓練について述べることができる。 5. オーラルヘルスケアケアに関わる多職種の役割について述べることができる。			○	◎		○									
公衆衛生看護学概論	2									1. 日本におけるヘルスケアシステムと公衆衛生看護活動の現状を説明できる。 2. 地域で生活する人々の健康を支援していく活動として、公衆衛生看護の基本的概念や活動の意義を説明できる。 3. 公衆衛生看護活動の展開について説明できる。 4. 保健医療福祉を取り巻く社会の変遷と公衆衛生看護活動の関連性を理解し、公衆衛生看護活動の意義について説明できる。		◎	○		○										
疫学	2									1. 疫学の基礎能力を身につける。(DP1-2) 2. 疫学および保健統計学の基礎能力を地域の事象と結びつけ分析することができる。(DP2-1)		◎	○												
公衆衛生看護技術論	2									1. 公衆衛生看護活動における保健指導について説明できる。 2. 個人/家族を対象とした支援に活用できる知識と理論を根拠として、個別支援の方法と技術を説明できる。 3. 集団を対象とした健康教育に活用できる知識と理論を根拠として、教育的支援の方法と技術を説明できる。 4. グループ支援・地域組織活動に活用できる知識と理論を根拠として、グループ支援・地域組織活動の方法と技術を説明できる。		○	◎		○										
公衆衛生看護方法論	2									1. 行政保健師の公的責任と活動方針を説明できる。 2. 地域ケアシステムの構築と保健師の役割を説明できる。 3. 地域を対象とした公衆衛生看護活動の主要な概念を説明できる。 4. 地域診断の目的および方法及び地域診断モデルを説明できる。 5. 保健活動の計画・実践・評価について説明できる。 6. 保健医療福祉における施策化・事業化について説明できる。			◎		○										
産業看護論	1									1. 産業保健・看護の意義および制度とその概要について説明できる。(DP1-2, DP2-1) 2. 産業保健を取り巻く環境、抱える現状と課題について説明できる。(DP1-2, DP2-1, DP3-2) 3. 産業保健活動を推進する各職の役割機能について説明できる。(DP1-2, DP2-1, DP3-2, DP4-2)		○	◎		○										

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次												
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
公衆衛生看護関係科目		2				2															
		1							1												
		2																			
		2																			
		5																			
		1																			
養護に関する科目		2																			
		2																			
		2																			
											◎	4	32	21	3	3	1	6	1	1	12
											○	9	29	57	19	41	31	31	19	14	0
計												13	61	78	22	44	32	37	20	15	12

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 2-2	D P 3-1	D P 3-2	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
児童・家庭福祉	2				2							◎	◎		○								
貧困に対する支援	2					2						○	◎		○								
保健医療と福祉	2				2							◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
権利擁護を支える法制度	2					2						◎	◎		○								
刑事司法と福祉	2						2					◎	◎		○								
介護技術演習	2		2										○									◎	◎
ファミリーソーシャルワーク論	2						2						○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○
スクールソーシャルワーク論	2							2					○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク演習	1					2							○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	1						2							◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	1						2							◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	1							2						◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	1								2					◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2												◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4						2	2						◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習Ⅰ	1													◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習Ⅱ	4													◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉制度論	2							2					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神障害リハビリテーション論	2								2					◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉の原理Ⅰ	2								2					◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
精神保健福祉の原理Ⅱ	2									2				◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	2									2				◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
ソーシャルワークの理論と方法(専門) B	2							2				◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神医学と精神医療	4				4							◎	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) A	1				2							○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) B	1						←	→				○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) C	1								←	→		○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	
ソーシャルワーク実習指導 A	2								←	→		○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	
ソーシャルワーク実習指導 B	4								2	2		○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
ソーシャルワーク実習 A									←	→		○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
ソーシャルワーク実習 B	2											○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
精神障害者地域生活支援論	2								2	2		○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
心理学と心理的支援Ⅰ	2	2										◎			○								
心理学と心理的支援Ⅱ	2	2										◎			○								
認知行動療法基礎演習	1					2						○	◎	○	○								
発達アセスメント演習	1						2							◎	○	○						◎	
高齢者臨床心理演習	1							2						○	○	○						◎	
発達心理学Ⅰ	2	2										○	◎	○	◎								
発達心理学Ⅱ	2	2					2					○	◎	○	◎								
発達臨床心理学	2							2				◎	◎	○	○								
発達臨床心理学演習	2								2					◎	◎	○							
障害者心理学	2							2					◎	○	○								
臨床心理学概論	2	2										○	◎	○	○								
カウンセリング論	2						2						◎	◎	○							◎	
社会心理学	2							2				◎			○								
家族心理学演習	2								2			◎	○	○	◎								
カウンセリング演習	1								2					○	○						◎	◎	
健康臨床心理学	2							2					◎	○	○								
スクールカウンセリング論	2								2					◎	◎								

科 目	必修	選 択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP														
			1年次		2年次		3年次		4年次																	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
保育実習指導Ⅰ	2							←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開する上での整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習先への事前訪問も踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行う際の体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力を高める。 	◎	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○			
保育実習Ⅱ	2								←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習指導の授業とリンクして実施する。 ・実習前に、実習オリエンテーション、実習生紹介票、実習計画作成、事前訪問についての個別指導を行う。 ・実習期間中、担当教員の巡回訪問では個別指導と共に、実習先のスーパーバイザーとの連携・協力を図る。 ・実習後学習として、担当教員による実習体験後のスーパービジョンと体験を共有するための報告会を行う。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○		
保育実習指導Ⅱ	1							←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開する上での整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習先への事前訪問も踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行う際の体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力を高める。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○			
保育実習Ⅲ	2							←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所以外の児童福祉施設において、社会福祉施設の実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につける。 ・知識・技能と、実践を体系的に結びつける。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○		
保育実習指導Ⅲ	1							←	→	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の意義、目的について理解する。 ・実習を展開する上での整えるべき書類の内容と作成技術を理解する。 ・実習先への事前訪問も踏まえて、実習課題と実習計画作成への道筋をつける。 ・実習先でのマナー知識、技術および人間関係の形成について理解する。 ・保育士として遵守すべき諸規則、諸規定、諸契約や守秘義務、職業倫理を理解する。 ・実習を行う上でのリスク管理、健康管理などについて熟知しておく。 ・実習後のスーパービジョンを行う際の体制の指導と報告会によりプレゼンテーション能力を高める。 	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○			
保育実践演習	2								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育にかかわる課題に関する分析、検討を行うと共に、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学修する。 ・問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、解決内容について再検討する手法を取得する。 															
専門研究Ⅰ	2								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導の下、各自(各グループ)で設定したテーマに基づいて研究を深めることが出来る。 	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
専門研究Ⅱ	2								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・各自(各グループ)で設定したテーマに基づいて専門領域の研究を深め、その成果をまとめることができる。 	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○			
卒業論文	4								2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域の研究プロセスを学び、その成果を卒業論文としてまとめることができる。 	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎					

福祉学科

学位授与の方針（DP）

- DP1【知識・理解】
 1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
 1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
 2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
 2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
 3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。
 3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探索しようとする意欲がある。
- DP4【態度】
 4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
 4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
 4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。
- DP5【技能・表現】
 5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
 5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 福祉学科は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。
- 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格が取得できる。
- 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基盤として専門教育科目は、「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。
- 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
- 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
- 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	選 択	養 教 一 種 免 状	開講時期・選授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2		
			1年次		2年次		3年次		4年次															
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
教職概論	2	2			2							◎												
教育原理	2	2		2								◎												
教育心理学	2	2			2							◎	◎		○	○							○	◎
教育社会学	2	2				2						◎		○										
教育課程論	2	2				2						◎												
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2					2					○	◎	○	○									○
特別支援教育論	1	1						1				◎	◎	○	○									
教育方法論	2	2					2					◎												
教育におけるICT活用	1	1		1												◎	◎							○
学校保健教育法	2	2						2				◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
道徳教育の理論と実践	2	2				2						◎				○	○	○	○	○	○	○	○	○
生徒指導論	2	2					2						◎	◎	○	○			○	○	○	○	◎	◎
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2				2						○	○	○	○	○						◎	◎	○
養護実習事前事後指導	1	1										◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
養護実習	4	4										◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
教職実践演習(養護教諭)	2	2								2		○	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

科目	必修	選	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP						
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1									
専門基礎分野	微生物学	2				2								◎			○	
	運動生理学	2						2					○	○	◎			
	食品学Ⅰ	2		2								○	○	○				
	食品学Ⅱ	2			2							◎	○	○				
	加工食品機能論	2				2						○	◎	○				
	調理学	2	2									○		○				
	食品衛生学	2					2					○	○	◎				
	フードスペシャリスト論	2	2									○						
	食品の官能評価・鑑別論演習	2			2	2						○						
	食品流通・消費論	2					2					○	○					
	フードコーディネータ論	2						2				○	○					
	実験・実習	解剖生理学実習	1				3						○	○	○			○
		人体の構造と機能基礎実習	1	3									○	○	○			○
		生化学実習	1				3						○	◎	○			
食品学実験		1				3						○	○	○				
食品栄養実習		1				3						○	○					
食品衛生学実験		1					3						◎				○	
健康情報処理実習		1					3					○	○	○			○	
基礎調理学実習		1	3									○	○	○			○	
応用調理学実習		1					3					○					○	

専 門 教 育 科 目	科 目	必 修	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P																				
			1年次		2年次		3年次		4年次																													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																												
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1																													
専 門 教 育 科 目	臨床基礎医学実習	1							3										1. 心電図や血糖値などの生理・生化学的指標を実際に測定し、その検査結果を意味を理解できる。 2. 健康状態を把握するために必要な面接法、診察法を習得し、病気の症状について説明できる。 3. 一次救命救急について理解し、救命救急法を習得する。 4. 病歴や臨床検査値の結果から、症例の病態をアセスメントし、病気の診断・治療を考察できる。																			
	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2						2											1. 栄養の概念について説明できる。 2. 各栄養素の構造と役割、およびその消化・吸収機構について説明できる。 3. 糖質、脂質、タンパク質について、その体内における栄養代謝の基礎を説明できる。																		
		基礎栄養学Ⅱ	2						2											1. ビタミン、無機質、水・電解質の栄養について、その代謝の基礎を説明できる。 2. エネルギー代謝の基本について説明できる。 3. 栄養における遺伝子の関わりについて説明できる。 4. 各栄養素の代謝の相互関連について説明できる。 5. 栄養学史、栄養障害、食物繊維などについて説明できる。																		
	応用栄養学	栄養学概説	2						2											1. 食事摂取基準の概念(策定方針、策定に関する基本事項)を説明できる。 2. 食事摂取基準の活用に関する基本事項を理解できる。 3. 食事摂取基準に設定されているエネルギーと各栄養素について、値の策定に関する背景、科学的根拠を説明できる。 4. 食品成分表の構成を説明できる。 5. 食品成分表の成分項目の位置づけを説明できる。 6. 食品成分表の成分項目の分析方法を説明できる。 7. 食品成分表を用いて、手計算で、献立の栄養計算ができる。																		
		応用栄養学Ⅰ	2						2											1. 栄養マネジメントの概要を説明できる。 2. 食事摂取基準の基礎的事項を説明できる。 3. 好娠期、授乳期における生理、生化学的変化に応じた栄養の特性、この時期に起こりやすい疾病の予防・改善のための栄養管理の方法、食事摂取基準を活用した栄養管理について説明できる。 4. 新生児期、乳児期の栄養の基本や心身の発育と栄養の関連性、消化吸収能を主とした小児の栄養生理学的特徴について理解できる。																		
		応用栄養学Ⅱ	2						2											1. 乳児期の栄養ケア、幼児期・学童期・思春期における心身の発達、食生活の特性や疾患、成長期における食事摂取基準を理解し、それぞれに適した栄養管理について説明できる。 2. 成人の形態的・機能的な特徴ならびに、生活習慣病の概要およびそれらの栄養の改善による予防および栄養管理について説明できる。 3. 高齢期における加齢および老化の理論、身体・精神の特徴、疾患、栄養管理等を理解し、説明できる。																		
		運動・環境と栄養	2						2											1. なぜ疾病の予防や健康の維持・増進さらに疾病治療に運動が有効なのかを理解し説明できる。 2. 運動不足病とは何か、またその実態とそれらを生み出す社会的・経済的・生活的背景について理解できる。 3. 運動時に要求される栄養素の量・質・バランスについて理解できる。 4. 運動において、各栄養素がどのように代謝されるかそのプロセスを学ぶ。特エネルギー代謝と栄養素の関わりについて深く理解できる。 5. 疾病予防や疾病の治療、あるいは健康の維持・増進と生活環境がどのように関連しているかを理解できる。																		
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2						2											1. 栄養教育の意義、定義、目的など栄養教育の概念を説明できる。 2. 栄養教育活動の現状と法的根拠、栄養士活動と栄養教育の歴史について説明できる。 3. 行動科学の理論、食行動変容のための行動科学理論について理解し説明できる。 4. 栄養教育マネジメントとカリキュラムの立案、学習形態、教育教材の選択など栄養教育の方法について説明できる。 5. 食環境と栄養教育の関係について説明できる。																		
		栄養教育論Ⅱ	2						2											1. ライフステージ、ライフスタイル、健康状態別の栄養・健康の特徴について説明できる。 2. ライフステージ、ライフスタイル、健康状態別の栄養・健康の課題について説明できる。 3. 栄養教育に関連する法律や国の施策について説明できる。																		
		栄養カウンセリング論	2						2											1. 人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解できる。 2. カウンセリングと栄養教育の関連性について理解できる。 3. カウンセリングの基本技法を説明でき、カウンセリングマインドを持つことの重要性を理解できる。																		
	臨床栄養学	臨床栄養管理学	2						2											ニュートリション・サポート・チームの一員として管理栄養士が備えておくべき栄養管理の専門知識や技術の基本を学び、さらに保健、医療、福祉との連携の中でも、ケア・マネジメントに参画できる能力を養うことを目的とする。 1. 臨床における栄養管理システムと栄養評価について説明することができる。 2. 栄養管理のためのスクリーニング、評価(アセスメント)、プランニング、モニタリング、再評価の方法について説明することができる。 3. 栄養ケアの記録法および評価の栄養教育の基本について説明することができる。 4. 栄養補給法および薬と栄養の相互作用について説明することができる。																		
		栄養治療学Ⅰ	2						2											1. 栄養スクリーニング・栄養アセスメントの意義および方法を理解し、説明できる。 2. 栄養補給法の種類、特徴および適応疾患を列挙できる。 3. 各疾患の成因・病態・治療法を理解し、治療のための具体的な栄養管理方法を説明できる。 4. 各疾患の栄養ケア計画を作成し、栄養ケア実施後のモニタリング法、栄養ケアの評価法を説明できる。 5. 各疾患の治療のための栄養管理方法として、具体的な調理のポイントを説明できる。 6. 薬剤と栄養・食物との相互作用を説明できる。 7. 各疾患の栄養管理を理解したうえで、個人対応できる。																		
		栄養治療学Ⅱ	2						2											1. 各疾患の成因・病態・治療法を理解し、治療のための具体的な栄養管理方法を説明できる。 2. 各疾患の栄養ケア計画を作成し、栄養ケア実施後のモニタリング法、栄養ケアの評価法を説明できる。 3. 各疾患の治療のための栄養管理方法として、具体的な調理のポイントを説明できる。 4. 各疾患の栄養管理を理解したうえで、個人対応できる。 5. 医療における栄養管理の意義、管理栄養士の役割を述べることができる。																		
		臨床栄養活動論	1						1											1. 医療人とは何か、医療過誤を含めた医療に関する法律と管理栄養士の関わりについて理解できる。 2. 医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実践について理解できる。																		
		介護概論	1						1											1. 保健・医療・福祉の動向と現在の介護問題について理解できる。 2. 介護の理念、概念及び職種について理解できる。 3. 介護の展開過程について理解できる。 4. 認知症高齢者の介護について理解できる。																		
公衆栄養学		公衆栄養学Ⅰ	2						2											1. 公衆栄養学の概念とヘルスプロモーションとは何か説明できる。 2. わが国の健康・栄養問題の現状と問題点、公衆栄養施策について具体例をあげながら説明できる。 3. 「日本人の食事摂取基準」の概念と活用理論を理解し、集団のアセスメントができる。																		
		公衆栄養学Ⅱ	2						2											1. 地域社会に根付いた集団の特性や諸問題を把握したうえで、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・評価することができる。 2. 公衆栄養プログラムの運営に際し、適切な社会資源の活用や、環境因子への働きかけの手法を理解し、説明することができる。																		
	地域栄養活動論	2						2											1. 地域栄養活動実践の概要と行政組織、管理栄養士の役割について理解する。 2. 地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法について理解する。 3. 地域栄養活動の様々な場における管理栄養士の専門的な業務や活動の実践を理解する。																			
給食経営管理論	給食計画論	2						2											1. 給食とはどのようなものか、その概念を理解し、給食における栄養士・管理栄養士の役割を説明できる。 2. 対象にあった栄養・食事管理の計画と評価のあり方を説明できる。 3. 食材料管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理など個々の業務内容の基本と他の業務との連携を説明できる。																			
	給食経営管理論	2						2											1. 経営管理について説明できる。 2. 給食経費の資源となる「人」「物」「金」「情報」をマネジメントすることについて説明できる。 3. 各種給食施設における給食の位置づけと給食経営管理の特性を説明することができる。																			

科 目	必 選	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP							
		1年次		2年次		3年次		4年次										
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
		修	択															
実験・実習	栄養学実習	1			3							◎	○	○				
	応用栄養学実習	1				3						○	◎	○	○	○	○	
	栄養教育論実習Ⅰ	1					3					○	○	○	○	◎	○	
	栄養教育論実習Ⅱ	1						3				○	○	○	○	○	◎	
	臨床栄養学実習	1							3				○	○	○	○	◎	
	公衆栄養学実習	1								3			◎	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅰ	1								3			◎	○	○	○	○	
	給食経営管理実習Ⅱ	1									3		◎	○	○	○	○	
	総合演習	総合演習Ⅰ	1								2			○	○	○	○	◎
		総合演習Ⅱ										2			○	◎	○	○
臨地実習Ⅰ		1									1週			○	○	○	◎	
臨地実習	臨地実習Ⅱ	2									2週			○	○	◎	○	
	臨地実習Ⅲ	1									1週			○	○	○	◎	
	食と健康分野	調理師論	2	2										◎	○			○
薬事法規概論		2	2										◎	○				
食品機能特論		2								2			○	◎	○		○	
実践栄養分野		実践調理・調理科学演習	1									2				○	◎	○
	運動栄養演習(スポーツ栄養含む)	1									2			○	◎	○	○	
	国際栄養論	2									2			○	○	○	◎	

栄養学科

学位授与の方針（DP）

- DP 1【知識・理解】
 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識及び技術を修得している。
- DP 2【思考・判断】
 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。
- DP 3【関心・意欲】
 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進及び疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲を持っている。
- DP 4【態度】
 4-1) 専門職業人としての職業倫理を持っている。
 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身につけている。
- DP 5【技能・表現】
 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 総合人間科学の科目を通して、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるとともに、管理栄養士及び栄養士にふさわしい豊かな人間性とコミュニケーション能力を養う。
- 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、大学で栄養学を学ぶ目的を明確にする。（1年次、2年次）
- 臨床栄養、栄養教育、給食経営管理、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、病院・福祉施設・学校給食・保健所などにおける「臨地実習」を実施し、実践的な能力とともに社会人としての基礎的な能力を養う。（3年次）
- 卒業研究、卒業ゼミ、演習を通して、4年間の学びの集大成を行う。また、これまでに培った知識や経験をもとに、問題解決能力、論理的思考能力を養う。（4年次）
- 各人が関心のある科目を体系的に履修できることを目的として、総合人間科学、専門基礎分野、専門教育分野の科目の中から、卒業必修科目、栄養士必修科目、管理栄養士必修科目、及び教職に関する科目をそれぞれ設定する。

科 目	選 択	栄 養 教 育 種 類	開 講 時 期 ・ 週 授 業 時 間 数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 4-1	D P 4-2	D P 5-1	
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次										
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教職概論	2	2			2														◎
教育原理	2	2		2															◎
教育心理学	2	2			2														◎
教育社会学	2	2				2													◎
教育課程論	2	2				2													◎
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2					2												◎
特別支援教育論	1	1						1											◎
教育方法論	2	2						2											◎
教育におけるICT活用	1	1		1															◎
学校栄養指導論Ⅰ	2	2						2											◎
学校栄養指導論Ⅱ	2	2							2										◎
道徳教育の理論と実践	2	2			2														◎
生徒指導論	2	2						2											◎
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2				2													◎
栄養教育実習事前事後指導	1	1									←								◎
栄養教育実習	1	1										←							◎

教職実践演習（栄養教諭）	2	2								<p>1. 教職課程関連科目について振り返り、各自に残された課題を確認する。 2. 栄養教諭として求められる資質・能力を具体的な学校場面に位置づけて考えることができる。 3. 信頼される学校づくりに資する栄養教諭のあり方についての理解を深めることができる。 4. 児童生徒等の理解の方法とそれに基づく教育活動について実践力を高めることができる。 5. 食の指導の計画・実施・評価に関する実践力を高めることができる。 6. 栄養教諭としての自律的な成長に必要なリソースの活用法を身につけることができる。</p>	○	○	○	○	○	◎	○
--------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP											
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
ケーション科目																							
	リーディング IV		2				2																
	英語学概論I		2			2																	
	英語学概論II		2			2																	
	ライティング基礎		2			2																	
	パラグラフ・ライティング		2			2																	
	エッセー・ライティング		2					2															
	英語文学I		2			2																	
	英語文学II		2			2																	
	英語通訳演習 I		2					2															
英語通訳演習 II		2					2																
専門科目																							
	欧米文化交流研修A		2	2																			
	アジア文化交流研修A		2	2																			
	欧米文化交流研修B		2	2																			
	アジア文化交流研修B		2	2																			
	メディア英語 I		2	2																			
	メディア英語 II		2			2																	
	時事英語入門		2				2																
	応用時事英語		2				2																
	国際理解科目																						
異文化間コミュニケーション I			2			2																	
異文化間コミュニケーション II			2			2																	
エリア・スタディ I			2			2																	
エリア・スタディ II			2			2																	
国際経済入門			2			2																	
国際関係入門			2			2																	
日本の歴史と文化地理 I			2	2																			
日本の歴史と文化地理 II			2			2																	
文化人類学			2				2																

英語学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
1-1) 国際的視野と地域的視野に立つて行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
1-2) 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】
2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】
3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】
4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】
5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
5-2) 情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 人間への深い理解と環境や現代社会文化への幅広い知識の基盤を形成し、専門教育の領域にとどまらない探求心を養う総合人間科学科目と「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門展開科目」「演習・研究」で構成される専門教育科目を設置する。
- 「専門基礎科目」には、英語に関する全科目を必修とし、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎固めになる科目を配置する。
- 「専門基幹科目」には、異文化理解を深め、英語・日本語などに関するグローバルな知識と思考能力などを養う科目を配置する。
- 「専門展開科目」には、現代社会の実態を学際的にとらえるために必要な知識とそれを表現する発信力を身につける科目を配置する。
- 「演習・研究」には、大学での学びに必要なスキルと自主的思考力を修得するための科目と、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置する。
- 高い英語運用能力と国際感覚を養うために、英語資格取得に関する選択科目と海外研修に関わる選択科目を配置する。
- キャリア形成に関しては、キャリア教育の基礎を学ぶ科目、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目を配置する。

科 目	選 択	(高 英 一 語 種) 免	(中 英 一 語 種) 免	開講時期・週授業時間数								到達目標	D P 1-1	D P 1-2	D P 2-1	D P 3-1	D P 4-1	D P 4-2	D P 4-3	D P 5-1	D P 5-2
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次											
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
教職概論	2	2	2		2							◎							○		
教育原理	2	2	2		2							◎							○		
教育心理学	2	2	2		2							◎							○	○	
教育社会学	2	2	2		2							◎		○							
教育課程論	2	2	2		2							◎							○		
特別活動論及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	2				2					◎							○		
特別支援教育論	1	1	1				1							◎					○	○	
教育方法論	2	2	2		2							◎									
教育におけるICT活用	1	1	1		1									○							◎
英語教科教育法Ⅰ	2	2	2		2							◎							○		
英語教科教育法Ⅱ	2	2	2		2							◎							○		
英語教科教育法Ⅲ	2	2	2				2												◎		○
英語教科教育法Ⅳ	2	2	2				2												◎		○
英語教科教育法Ⅴ	2	2	2				2							○					◎		○
道徳教育の理論と実践	2	2	2		2							◎		○	○					○	
生徒・進路指導論	2	2	2				2							○		○	○		◎		○
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	2	2		2									○			○		◎		○
教育実習事前事後指導	1	1	1							←									○	◎	
教育実習Ⅰ	2	2									←			○		◎			○	○	
教育実習Ⅱ	4	4	4								←			○		○			○	◎	
教職実践演習(中・高)	2	2	2								2	○		○						◎	

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	備考									
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
専 門 科 目	基礎中国語	□			2							○	◎	○								
	中級中国語	□			2							○	◎	○								
	上級中国語	□				2						○	◎	○								
	応用中国語	□					2					○	◎	○								
	ツーリズム中国語	2						2					◎			○	◎					
	中国語通訳ガイド演習	2							2				◎			○	◎					
異文化交 流に 関する 科目	欧米文化交流研修A	▲	2									○		◎								
	アジア文化交流研修A	▲	2									○		◎								
	欧米文化交流研修B	▲	2									○		◎								
	アジア文化交流研修B	▲	2									○		◎								
	比較文化論	2	2												◎			○				
	欧米観光文化地理Ⅰ					2						◎		○								
	欧米観光文化地理Ⅱ						2					◎		○								
	アジア観光文化地理Ⅰ	2				2								◎								
	アジア観光文化地理Ⅱ	2					2								◎							
	映画で学ぶ欧米文化	2						2							◎			○				
キ ャ リ ア 教 育 科 目	キャリアデザイン論Ⅰ	2					2								◎		○	○	○			
	インターンシップ	2						2									◎	○	○	◎		
	キャリアデザイン論Ⅱ	2							2							◎		○	○	○		
留 学 生 対 応 科 目	初級日本語	■	2										○		○		◎					
	中級日本語	■	2											○		○		◎				
	上級日本語	■	2											○		○		◎				
	応用日本語	■	2												○		○		◎			
	ツーリズム演習	1				2							○		○		◎		○	○		
演 習 ・ 研 究 科 目	ビジネス演習	1				2							◎			○		○	○			
	地域活性化演習	1					2						○		◎		○	◎				
	専門演習Ⅰ	1						2					○		◎		○	○	○	○		
	専門演習Ⅱ	1							2					○		◎		○	○	○		
	卒業研究	4								4						◎		○	○	○		

助産別科 カリキュラムマップ

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
1-1) 周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに必要な基礎的知識を修得している。
DP2【思考・判断】
2-1) 周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアにおける対象の健康状態を根拠に基づき論理的に思考・判断できる。
DP3【関心・意欲】
3-1) 周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに関する課題に主体的に取り組む意欲を持っている。
DP4【態度】
4-1) 専門職としての倫理観をもち、自律した態度を身につけている。
4-2) 母子保健活動において多職種との連携および協働する態度を身につけている。
DP5【技能・表現】
5-1) 基本的な助産ケアを安全・安楽に基づき実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 助産別科の教育課程は、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
2. 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目をより円滑に学ぶための「支援科目」および助産実践力を育成する「実習科目」で構成する。
3. 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方を核にして、女性の健康に関する基本的な考え方や助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得する。また、社会の動向・対象のニーズの変化に関心をもち、女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
4. 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得する。また、妊娠・分娩・産褥及び新生児各期において正常および正常からの逸脱に関する判断ができ、助産師として責任ある態度と助産技術を提供する能力を育成する。
5. 支援科目では、助産の実践領域をより円滑に学ぶための幅広い知識を修得するよう育成する。
6. 実習科目では、学内で修得した知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、対象に応じた基本的な助産ケアを安全・安楽に提供できる実践力を育成する。また、母子保健チームの一員として責任感をもち、多職種との連携を基盤に地域とのつながりを意識して行動できる態度を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 授業時間数		DP 1-1	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 5-1
				前期	後期						
助産の理論領域 基礎科目	基礎助産学Ⅰ	1	1		2	◎		○	○		
	基礎助産学Ⅱ	1	1		2	◎					
	母子の心理・社会学	1	1		2	◎		○			
	助産学研究演習	1	1		2		○	◎	○		
	母子栄養学	1	1		2	◎	○				
	キリスト教と生命倫理	1	1		2	○		○	◎		
助産の実践領域 専門科目	助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	1		4	○	◎	○	○	○	○
	助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)	2	2		4	○	○	◎	○		○
	助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	2	2		2	○	◎	○			
	ウィメンズヘルスケア	1	1		2	◎	○	○	○		
	助産管理学	2	2		2	◎	○	○			
	地域母子保健	1	1		2	◎	○	○	○	○	
	子育て支援論	1	1		2	◎		○			
支援科目	母性の運動科学	1	1		2	◎					○
	人間関係とコミュニケーション	1		1	2	○			◎		
助産の実践領域 実習	助産学基礎実習	4	4		実習		○	○	○		◎
	助産学実習Ⅰ(正常)	5	5		実習		○	○	○	○	◎

助産別科 カリキュラムマップ

学位授与の方針（DP）

- DP1【知識・理解】
1-1）周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに必要な基礎的知識を修得している。
DP2【思考・判断】
2-1）周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアにおける対象の健康状態を根拠に基づき論理的に思考・判断できる。
DP3【関心・意欲】
3-1）周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに関する課題に主体的に取り組む意欲をもっている。
DP4【態度】
4-1）専門職としての倫理観をもち、自律した態度を身につけている。
4-2）母子保健活動において多職種との連携および協働する態度を身につけている。
DP5【技能・表現】
5-1）基本的な助産ケアを安全・安楽に基づき実践できる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 助産別科の教育課程は、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目をより円滑に学ぶための「支援科目」および助産実践力を育成する「実習科目」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方を核にして、女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得する。また、社会の動向・対象のニーズの変化に関心をもち、女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得する。また、妊娠・分娩・産褥及び新生児各期において正常および正常からの逸脱に関する判断ができ、助産師として責任ある態度と助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、助産の実践領域をより円滑に学ぶための幅広い知識を修得するよう育成する。
- 実習科目では、学内で修得した知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、対象に応じた基礎的な助産ケアを安全・安楽に提供できる実践力を育成する。また、母子保健チームの一員として責任感をもち、多職種との連携を基盤に地域とのつながりを意識して行動できる態度を育成する。

実践領域	科目	授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 選授業時間数		DP	DP	DP	DP	DP	DP
						前期	後期	1-1	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1
実践領域	科目	助産学実習Ⅱ（正常逸脱）	3	3			実習		○	○	○	○	◎
		助産管理実習	1	1			実習		○	○	◎	○	

保育科一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学の学位授与の方針(DP)										
		必修	選択	DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】			DP4【態度】		DP5【技術】		
				1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	3-2)	3-3)	4-1)	4-2)	5-1)	5-2)	5-3)
キリスト教教育	キリスト教学Ⅰ	2		◎										
	キリスト教学Ⅱ	2		◎										
初年次教育	初年次セミナー	1		◎								○		
女性と健康	運動と健康	1		◎	○									
	スポーツ実技	1									◎			
	女性とマナー	*1		◎										
	共生社会とジェンダー	*1		◎										
基礎教養科目	心理学	2		◎										
	文学	2		◎										
	日本国憲法	2		◎			○							
	経済学入門	2		◎										
アカデミックスキル	メディアリテラシー	2			◎								○	
	情報処理入門	2			○								◎	
	英会話入門	*1										◎		
	応用英会話	*1										◎		
	ハングル入門	*1										◎		
	日本語表現法	1										◎		
地域創生	北九州の技と文化	1										◎		
キャリア形成支援	キャリア開発	1		◎										

※ *は1単位以上必修選択

保育科

学位授与の方針（DP）

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士（保育学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1-2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。
- 3-2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心を持ち、保育者としての社会的な役割を意識する。

DP4【態度】

- 4-1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を追求する力を有している。

DP5【技能・表現】

- 5-1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。
- 5-2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。
- 5-3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。

2. 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩奉仕」を理解させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

3. 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教保育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指している。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進行する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。

4. 専門性を高め、職業選択の幅を広げるため、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得に必要な科目の他、多様化する社会のニーズに対応するために必要な免許・資格に係る科目を配置している。

授 業 科 目	必 修	選 択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP											
			1年次		2年次																
			前期	後期	前期	後期															
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3					
専 門 教 育 科 目	教職に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	保育者論	2		2															
			保育原理	2		2															
			教育原理	2			2														
			子ども家庭福祉	2		2															
			社会福祉	2			2														
			社会的養護Ⅰ	2				2													
	専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関する科目	子ども家庭支援論	2			2														
教育相談とカウンセリング			2				2														
保育の心理学			2				2														
子どもの理解と援助			1					2													
子どもの保健			2					2													

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP										
			1年次		2年次													
			前期	後期	前期	後期												
			1-1	1-2	2-1	3-1												3-2
保育の対象の理解に関する科目	子どもの食と栄養	2			4	(4)		◎									○	
	子ども家庭支援の心理学	2		2					○	◎								
専門教育科目 教職に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価(教育課程含む)	2		2									○				◎	
	子どもと健康	1	1					◎			○							
	子どもと人間関係	1		1				◎			○							
	子どもと環境	1	1					◎			○							
	子どもと言葉	1	1					◎			○							
	子どもと表現	1		1				◎			○							
	保育内容総論	1		2					○								◎	○
	保育内容「健康」の指導法	1		2					○								◎	○
	保育内容「環境」の指導法	1		2					○								◎	○
	保育内容「言葉」の指導法	1		2					○								◎	○
	保育内容「表現」の指導法(造形)	1		2					○								◎	○
	保育内容「表現」の指導法(音楽・身体)	1		2					○								◎	○
	保育内容「人間関係」の指導法	1		2					○								◎	○
	保育実践の理解と方法	1		2						◎			○					
	保育方法とメディア	1		2					○						◎			
特別支援教育論(障がい児保育含む)	1		2					◎	○				○					
障がい児保育演習	1		2						◎			○					○	

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP																										
			1年次		2年次																															
			前期	後期	前期	後期																														
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3																				
子育て支援		1				2						◎	○					○																		
乳児保育Ⅰ		2				2		◎	○																											
乳児保育Ⅱ		1				2			○									◎																		
子どもの健康と安全		1				2			○									◎																		
保育の内容・方法に関する科目																																				
																			社会的養護Ⅱ	1				2												○
																			キリスト教保育	2				2		◎										○
																			子ども音楽療育概論	2				2			◎									○
																			子ども音楽療育演習	1				2												◎
																			子ども音楽療育実習	1				5日間												◎
在宅保育	2				2												◎																			
子どもと絵本		1				2					◎						○																			
専門教育科目																																				
																			音楽の基礎	1				2												◎
																			子どものうたあそび	1				2												◎
																			子どものためのピアノⅠ	1				2												◎
																			子どものためのピアノⅡ	1				2												◎
																			子どものうたと伴奏法Ⅰ	1				2												◎
																			子どものうたと伴奏法Ⅱ	1				2												◎
																			子どもの運動あそび	1				2												◎
																			子どもの発達理解とあそび	1				2						○	◎					○
																			子ども文化	1				2						◎						○

授 業 科 目	必 選	修 択	週授業時間数				到達目標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	
			1 年次		2 年次														
			前期	後期	前期	後期													
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3			
器楽アンサンブル	1				2	1. 簡易打楽器の取扱い・奏法を理解できる。 2. リズム譜の理解と読譜力を向上させリズム譜の作成をすることができる。 3. 様々な楽器を使ってアンサンブルすることができる。 4. 子ども達への器楽アンサンブルの指導ができる基本的な技術を身につけることができる。											◎		
保育総合表現	2				4	1. 音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現を統合した表現活動を体験できる。 2. 演技力、歌唱力、創作力を磨き、子どもに相応しい表現力を体得できる。 3. チームワーク力、コミュニケーション力を養い、共同作業において自らの関わり方を検証できる。								○	○	◎			
◇ 総合演習	子ども学基礎演習	2	2	2		1. 保育現場の現状を知り、保育者としての自分の見通しを持つことができる。 2. 保育者として、社会人として必要な人間関係形成・社会形成能力を備える。 3. 自己の役割を見出し、様々な他者を認めつつ協働していく力を持つことができる。 4. 保育者として、様々な課題を発見し適切な計画を立ててその課題を処置し解決できる力を身につける。								○	○	◎			
	子ども学特別演習	2			2	2	1. 主体的に研究課題を設定し、実践や演習方法を考え、実行することができる。 2. 研究活動やその成果に対して、適切な自己評価および相互評価ができる。 3. ゼミ内外の学生と協力して、研究報告発表会等を企画運営することができる。							○	◎				
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2				2	1. 保育者としての使命感を持ち、子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を身につける。 2. 同僚保育者や保護者、地域の専門機関との関係を築きながら、保育実践に取り組むことができる。 3. 子ども理解のための観察や記録に基づき、子どもの発達や心身の状況に応じた保育をする力を身につける。 4. 保育に関する現代的課題について、現状分析・考察・検討ができる。 5. 保育現場での問題解決のための対応・判断力を身につける。 6. 保育者として必要な知識・技能が修得できたかどうか自己確認し、自己課題を明確にできる。			○	○	◎	◎	○			○		
教育実習	教育実習指導	1				←	→	1. 2年間の実習計画全体を知り、各期(教育実習Ⅰ(1年後期・2年前期)、教育実習Ⅱ(2年後期))の教育実習の意義・目的・内容について理解できる。 2. 実習園でのオリエンテーションの受け方や実習の基本的心得について理解し、実践できる。 3. 実習の際に必要な、観察と記録の方法、教材研究や指導案作成方法などを中心に、これまで各講義や演習で学んだ知識と技術を総合的に活用しながら実習に取り組む準備ができる。 4. 実習後には、グループ別話し合いや個別面談および報告会を通して自己課題が明確にできる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育実習Ⅰ	1				←	1週	→	1. 実習生としての基本的態度を身につけることができる。 2. キリスト教保育を体験的に理解できる。 3. 子どもと一緒に生活し、幼児の発達の姿を理解することができる。 4. 幼稚園教育の実際が概ね理解できる。 5. 観察の方法と記録の書き方が理解できる。 6. 教材研究の方法について、実習体験を通して理解できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育実習Ⅱ	教育実習Ⅱ	1					1週		1. キリスト教保育を体験的に理解できる。 2. 幼稚園教育の実際が理解できる。 3. 幼児理解の方法について、実習体験を通して考えることができる。 4. 実習日誌の作成ができる。 5. 教材研究の方法が実習体験を通して理解できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	教育実習Ⅲ	2					2週		1. 実習園において観察実習に基づいて、参加実習を担当することができる。 2. 指導案を作成し、部分実習や一日実習を担当することができる。 3. 実習園における各種の行事や幼稚園教諭の職務を体験的に理解できる。 4. 実習園における毎日の保育について記録にまとめ、考察することができる。 5. 実習体験をもとに総合的考察を行ない、自らの今後の課題をまとめることができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ	2	2	2					1. 保育実習の意義・目的について説明できる。 2. 保育実習に対する心構えをもち、実習課題を明確化できる。 3. 実習記録の意義・方法を理解し、実際に記録できる。 4. 実習施設の概要について説明できる。 5. 実習施設における担当保育士の指導を通して、保育内容や子どもへの理解を深める。 6. 保育実習に関する事務手続きについて把握し、適切に処理できる。 7. 実習の事後指導及び実習施設の評価をもとに、自己評価を行い、新たな学習目標や課題を明確にする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
保育実習Ⅱ	保育実習指導Ⅱ	1				1	1		1. 保育士としての職業倫理を説明できる。 2. 子どもの家族とのコミュニケーションの取り方や、地域社会との連携方法について説明できる。 3. 個々の子どもの個人差やニーズを把握し、子どもの最善の利益に配慮した関わりについて説明できる。 4. 保育課程や指導計画について理解し、立案できる。 5. 保育実習に関する事務手続きについて把握し、適切に処理できる。 6. 保育所保育士に求められる資質、能力、技術を理解し、自分の課題や今後の方向性を明確化できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育実習指導Ⅲ	1				1	1		1. 施設実習Ⅱにおける実習の意義・目的・内容について説明できる。 2. 施設実習Ⅱに対する心構えを持ち、実習課題を明確にできる。 3. 児童福祉施設における保育士の役割について説明できる。 4. 施設実習Ⅱにおいて求められる基本的な養護・療育技術を実践することができる。 5. 実習後の振り返りから、施設保育士の役割の観点から自己課題を明確にできる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	保育所実習Ⅰ	2					10日		1. 実習を行う保育所の役割や機能について説明できる。 2. 実習を行う保育所の1日の流れを理解し、主体的に保育に参加できる。 3. 乳幼児とのかかわりを通して、子どもの発達について説明できる。 4. 保育課程・指導計画の意義について説明できる。 5. 実習を通して保育技術を習得し、実践につなげることができる。 6. 子どもの最善の利益を具体化するための取り組みについて説明できる。 7. 実習を通して自己の課題を明確にできる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
施設実習Ⅰ	保育所実習Ⅱ	2					10日		1. 保育全般に参加し、習得した保育技術を実践に活かすことができる。 2. 乳幼児の個人差について理解し、子どもへの対応方法を実践できる。 3. 指導計画を立案し、それを実践できる。 4. 様々な保育ニーズについて理解し、保護者や地域社会との連携を説明できる。 5. 子どもの最善の利益への配慮を通して、保育士に求められる資質について説明できる。 6. 実習を通して自己の課題を明確に示すことができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	施設実習Ⅰ	2					10日		1. 児童福祉施設の役割と、そこで生活している子どもの専門職員の役割、他機関との連携、地域との連携などについて理解をする。 2. 子どもとともに生活をしながら、子どもの観察をし、ニーズを見出すことができる。 3. 養護・療育活動に参加し、適切な処遇のあり方について考えることができる。 4. 養護・療育計画を実施することができる。 5. 保育士としての倫理観、子どもの最善の利益を保障するための具体的対策など、保育士の役割について説明できる。 6. 安全及び疾病予防への配慮について考え、実践できる。 7. 職員のそれぞれの役割とチームワークについて理解した上で、自分の役割を遂行できる。 8. 地域の中での児童福祉施設の役割について説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	施設実習Ⅱ	2					10日		1. 対象児・者についてのアセスメントの意味を説明できる。 2. 養護計画・療育計画の作成を試みる。 3. 保育士の専門性について十分理解し説明できる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	